

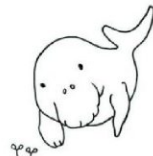
ジュゴン Vol.60

ちゃんぷるニュース



2012. 1. 24

CONTENTS



- 2 情勢 — 評価書の提出を巡り
- 11月政府交渉の報告
- 3 フィリピン訪問記⑥
- 5 アセス訴訟 集中審理
- 6/7 活動報告
- コラム「迎春のヨナタマ考」
- 8 お知らせ

皆さん、明けましておめでとうございます。 昨年は3月の東日本大震災と福島第一原発事故により、被災された人々は災害を乗り越えてきた一年でした。首相は「事故収束」と宣言しましたが、原発の安全確保では依然未解決の課題が山積しています。

普天間基地移設をめぐる日本政府の動向も、防衛官僚の沖縄差別発言などで怒りが高まりました。SDCCは辺野古への新基地建設に反対し、環境影響評価書の提出を断念するよう抗議行動を行ってきました。しかし多くの世論を無視し、政府は年末に異例とも言える強引な方法で、評価書を沖縄県に提出しました。これは広く国民の理解など得られるはずありません。辺野古移設に必要な公有水面の埋め立て許可申請への対応に、県知事は「不可能との考えに変わりはない。承認することはまずない」と認めない可能性に言及しています。

2012年は正念場の年!!

1月と2月に那覇地方裁判所で、辺野古アセスやり直し裁判の集中審議が行われます。評価書提出をふまえて、証人喚問でオスプレイの配備など、政府が故意に隠してきたことが明らかになれば、県民を無視したアセス評価書の信用性が問われます。

今年は、新基地建設を断念させる正念場の年です。この重要な年に、9月6日から韓国・済州島で第5回世界自然保護会議が開かれます。SDCCはノレッジ・カフェとポスターセッションで、世界のIUCNのメンバーにジュゴンがおかれている環境を知ってもらい、「基地も原発もいらない!」「基地ではなくジュゴン保護区を!」の実現にむけてキャンペーンを広げてきます。名護市の豊かな環境を活かした地域づくりに協力関係を深め、ジュゴン保護区の実現に向けて、新基地建設を断念させる取り組みをさらに続けていきます。皆様のご支援、ご協力をどうぞよろしくお願いいたします。

(首都圏 矢敷克子)

[WEB] <http://www.sdcc.jp/>

[EMAIL] info@sdcc.jp



沖縄県庁六階、知事室前に座り込み、県知事が表れるのを待つ人々(2面)

2012 済州島へ行こう!

SDCCハンゲル講座~

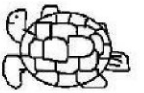
— 第1回: 基本的なあいさつ —

- ◆안녕하세요? (おはようございます、
안녕하세요 (こんにちは、今晚は) ※
- ◆감사합니다. (ありがとうございます)
카무사함 니다 *
- ◆잘 부탁드립니다. (よろしくお願ひします)
찰랄 푸타ッカム 니다

※もとの意味は「安寧ですか(お変わりないですか)?」で、朝昼晩とも共通です。

情勢

「評価書は環境に配慮していない」との知事意見を求めよう



＜監視行動の成果＞

12月28日午前4時、沖縄防衛局が沖縄県庁に辺野古アセス評価書が入った段ボール箱16個を搬入。これをマスコミは「闇夜の評価書提出」と。対米公約「辺野古新基地建設の目に見える進展」を優先する野田内閣の姿です。仲井真知事は庁内に座り込んだ県民の前で「埋め立ての手続きに入れば、移設先は県外にとの考えで対応したい」と言わざるを得ませんでした。全国紙でも取り上げられ、孤立する沖縄防衛局長は「評価書を早く公表するよう検討している」と批判を回避するのに必死です。

＜史上最悪の環境アセス＞

提出されたアセス評価書に初めて垂直離着陸輸送機V22オスプレイが明記されました。方法書や準備書には書かずに市民の意見表明の機会を奪うことは、事業者の情報公開と説明責任を求める環境アセスメントの精神に反するものです。

絶滅危惧種ジュゴンについては、「生息域はほとんど減少しない」「影響は最小限にとどめるよう十分配慮されている」としています。最大のえさ場の

辺野古沿岸域でジュゴンが確認できなかったから、辺野古沿岸域は生息域ではないとの理屈は非科学的です。最大のえさ場で、なぜ、ジュゴンが発見できなかったのかをこそ検討すべきなのです。環境アセス開始前の違法な事前調査。ジュゴンのえさ場入り口(クチ)に水中カメラ設置などのジュゴン追い出し工作が、辺野古沿岸域に入れなかった原因なのです。

＜新基地建設断念へ＞

1月11日～13日、2月1日に辺野古アセスやり直し裁判の集中審理が行われます。その後、オスプレイ配備を隠していた高見沢前防衛政策局長の証人尋問も予定しています。アセス評価書の知事意見を検討する県環境影響審査会も、2月20日(飛行場・条例アセス)、3月下旬(埋め立て・法アセス)にむけて開かれます。「評価書は環境に配慮していない」との知事意見を実現するためにも傍聴行動が重要です。6月にも予想される埋め立て申請で、アセス評価書の知事意見が重要な意味を持ちます。今年9月に韓国済州島で開かれるIUCN第5回世界自然保護会議での取り組みがより重要になってきています。

昨秋の署名提出と政府交渉

昨年11月24日、28日と防衛、外務、環境省交渉を行いました。

1万筆を超える署名を環境省に提出し、累計で5万5千筆を超えました。環境省は交渉の中で、7月にジュゴン保護覚え書き署名国会議(MoU)東南アジア地域会合にオブザーバー参加したことを明らかにしました。運動の成果です。2012年MoU全体会議への参加を求めています。

今回の交渉のポイントは3点。

ひとつは、沖縄防衛局のアセス評価書です。防衛省はオスプレイを評価書に明記し、年内に提出することを明らかにしました。評価書ではじめて記入することは、市民の意見表明の機会を奪う後出しであると厳しく批判しました。

二つ目は、ジュゴン保護を明記している日米環境管理基準(JEGS)です。2008年1月に米国でのジュゴン裁判で国防総省は沖縄ジュゴンを保護するプログラムの作成を要求されています。しかし、日米間で一度も議論がされていないことが明らかになりました。

三つ目は、6月名護市議会でジュゴンを種の保存法に種指定する意見書が採択されたことです。環境省は「種指定するにはジュゴンの生態調査が不足し、保護施策がないので無理だ」と自らの責任を棚上げして消極的な姿勢に終始しました。そこで、積極的に地元に入り、ジュゴン保護の自主ルールづくりに努力することを求めました。フィリピンで取り組まれているクリティカル・ハビタットについて、2012年9月IUCN(国際自然保護連合)第5回世界自然保護会議で環境省を含めて議論を深めたいと思います。(事務局 蜷川義章)



あみちゃんのフィリピン訪問記 ~その6~



最終回

ー共に町のことを考えられる人に

皆さんは「保護区」と聞いてどんなイメージを持たれますか。私は、今まで「保護区」は“ジュゴンや海を守って、エコツアーを上手に運営することで、地元の方の収入源になる可能性がある”程度で漠然としか考えていませんでした。今号では、2回のフィリピン訪問で変わった「保護区」の考え方について、お伝えします。

ヒナトゥアンでは、クリティカルハビタットの相談役であるNGOが、運営計画を作るため、町の自然・観光など様々なデータを集めます。そして、住民と一緒に、町の未来像を共有しながら、クリティカルハビタットの運営計画を立てていきます。つまり、クリティカルハビタットを考えることは自分たちの町の今を知り、より良い町を考える機会になるのです。また、より安定した収入を得るためのプログラムや女性向けのプログラムも組み合わせ、住民の総合的な力の向上を図っていることも特徴的でした。

「保護区」と聞くと、海ばかり目がいきますが、本当は、今の町や人を見つめ、この先、地元の人にとって、暮らしやすく、誇れるような町にするための一つのきっかけになるのだということを感じました。私も沖縄ジュゴンを守っていくために、もっと地元の方々のお話を伺いながら、共に町のことを考えられる人になっていきたいと思いました。

(関西 正阿彌(しょうあみ)崇子)



フィリピンで見えたこと聞いたことをたくさんの方と共有し、活動に活かしたいと思っています。感想、意見、質問などをメールや手紙(関西事務所宛)で送ってください。皆さんの声をお待ちしております。

あみこと SDCC のスタッフの正阿彌崇子は昨年3月2日～8日と9月29日～10月16日にフィリピンを訪れ、地域主体のジュゴン保護区であるクリティカルハビタット予定地(ヒナトゥアン市)を視察してきました。



あみ

環境資源庁と海洋保全の問題の話し合い



市内の漁師の集まりでジュゴンのお話をさせてもらい、ジュゴンマスコットをプレゼント

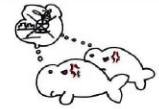


济州島

ハングル講座を始めるにあたって

今年9月6日から15日まで、国際自然保護連合 (IUCN) 第5回世界自然保護会議が韓国济州島で開かれます。SDCC はジュゴン保護区の交流を深めるノレッジ・カフェや名護市、地元住民に働きかけてきた取り組みのポスターセッション、ブース展示などを取組みます。予想参加者1万人に「基地ではなくジュゴン保護区」をアピールし、地元の人々との交流を深めるためにハングル講座を始めます(1面右下参照)。

アセス評価書STOP！抗議行動



12月5日、田中沖縄防衛局長（前）の差別発言を許さない防衛省前抗議行動（辺野古実主催）で、SDCCは一川防衛大臣の罷免と辺野古アセス評価書の年内提示を行わないことを求める「要請書」を提出しました。また、評価書の提出に反対する防衛省前でのスタンディングや首相官邸前の集会にも参加することで沖縄県民会議の行動に連帯しました。

沖縄では26日、27日と午前7時30分から閉庁時間の午後5時15分まで、県庁前広場での評価書搬入の監視行動に参加。これらの取り組みが、沖縄防衛局に28日夜明け前の強行搬入という失態を演じさせました。



12月5日の抗議行動
SDCCスタッフが要請書を
読み上げました。



12月22日、防衛省前
評価書提出への抗議のスタンディング



沖縄県庁1階
評価書が運び込まれた守衛室前の座り込み

～ 辺野古アセス訴訟集中審理～ジュゴンの日～

1月11日から13日までの3日間、那覇地方裁判所において「辺野古アセス訴訟」の集中審理が行われました。

沖縄防衛局が辺野古・大浦湾への米軍基地建設を進める手続きとして強行してきたアセス。その違法性を訴え、アセスの「やり直しの義務を負うことの確認」を求める裁判には、SDCCのメンバーを含む622人が原告となっています。

集中審理では専門家と原告の9名が尋問を受けましたが、13日はまさに「ジュゴンの日」。まず水生哺乳学の専門家の粕谷俊雄さんが、「基地建設により生息環境が悪化し、ジュゴンに影響がでることは間違いない」と指摘。調査自体が生息環境を損なった可能性にも言及しました。

ジュゴンネットワーク沖縄の細川太郎さんは、ゼロオプションのない沖縄防衛局のアセスに対し、ジュゴンの保全の視点がなく、アセスの使命を放棄している、としました。

僕は原告の立場から、SDCCや市民アセスなどのメンバーとして、そして市民としてどのようにアセスに関わってきたかを証言しました。アセスの科学性と民主性を信じて真摯に関わってきたが、事前・後調査や方法書の情報の

「後出し」により、アセスの枠組みから排除され、意見を言う機会を奪われたことが論点です。

沖縄防衛局は裁判自体を認めないという立場なので、集中審理では一切質問をしていません。しかし裁判官からは質問があり、そこでアセスの実態をさらに示せたと思います。

沖縄県知事の埋立て許認可の期限の前に判決を下すと表明した裁判官。歴史的な判決への期待が高まります。

（沖縄 吉川秀樹）



©Okinawa Outreach

沖縄等米軍基地問題議員懇談会 (院内集会)に参加しました



参加された国会議員は、民主党（川内博史さん、近藤昭一さん、玉城デニーさん、瑞慶覧長敏さん）、社民党（福島瑞穂さん、山内徳信さん、服部良一さん）でした。まとめの挨拶は、社民党参議院議員の山内徳信さんでした。「県民、議会を無視して辺野古への基地建設は許さない！」と力強い決意表明で集会をまとめました。（首都圏 三村昭彦）

脱原発世界会議 in Yokohamaに参加



1月14、15日の両日、パシフィコ横浜で「脱原発世界会議」が開催されました。両日で11500名が参加。14日の「脱原発世界大行進」にも4500名が参加。SDCCはブース参加し、脱原発を求める日本と世界の人たちに「基地も原発もいらない」とアピールしました。

2つの大ホールでは、「福島原発事故で何がおきたか」「福島原発事故 被害の実態と被ばく最小化への提言」などのテーマで、福島現地や海外からの参加者を交えセッションがおこなわれました。

そして「経産省前テント村ひろば」「脱原発1000万人署名ブース」など、この10カ月の運動を反映した企画がいっぱい。SDCCブースの隣は、ODA予算10億円を使って、汚染の可能性のある魚を缶詰にし、アジアにばらまく外務省の計画を有志で追及しておられる方の展示でした。そして子供連れのお母さんの参加が多かったこと、「基地も原発も同じだよ」「辺野古テント村に行ったことある」という方が多かったのが印象的でした。

「基地も原発もなくす」ために市民一人一人が動き出しているのを実感した2日間でした。（関西 松島洋介）



その場に集う人たちとつながりたいと思い、脱原発世界会議に参加しました。「ワールドシフト」3・11以降すごく意識している言葉です。私たちは変わらなくちゃ！ゼロ・オプション、この国のあり方を根本から考え直して、立て直していかななくちゃ。座り込み、デモ、多くの人々が動き出した、でもまだ止められない、もっともっと力が必要・・・。

SDCCは2日間ブース出展し「基地も原発もいらない」「平和を創ろう」とアピール！多くの方が共感してくれ、署名もフラッグもいっぱい集まり、ジュゴンの平和パワーは広がりました。会場内は熱気が溢れ、原発事故が起こって本当に大変なことになってしまった・・・だから今、何かしたいというエネルギーで満ちていました。いろんな出会い、熱い思いをいっぱい感じ充実した2日間でした。宮城、福島から来られた人たちとも出会え、様々なことを感じました。基地も原発も根っこは同じ問題、みんなつながって、この機会を次につなげ、大きくシフトしていきたい！“変えていける”と希望を感じた2日間でした。（関西 池側恵美子）



報告

「竜宮神が明かす古代史—海勢頭豊の歌とお話」



法政大学総合講座「沖縄を考える」



沖縄が本土に復帰した1972年から法政大学には沖縄文化研究所があるそうです。その研究所の開催する2011年度の総合講座「沖縄を考える」の最終回、大取の講演をSDCC代表でもある海勢頭豊さんが務める事になったと聞き、首都圏はもちろん関西からも応援？に駆けつけました。毎週金曜日の4時限の授業となっていますが、一般参加もOKとのこと。過去の講師の面々も沖縄の多種にわたるスペシャリストとなっていました。

さてさて会場は約400名の大盛況、ロビーでは署名集めとジュゴングッズやCD販売もさせてもらいました。90分という限られた時間の中では「竜宮神が明かす古代史—海勢頭豊の歌とお話」という収まりきらないタイトルでしたが、月桃、琉球讃歌、サンなど10曲の熱唱の間にその曲を作った時の歴史的背景や曲に込めた想いを説明されていました。個人的には岡本太郎の太陽の塔に隠された沖縄・日本国民に対するメッセージのお話をもっと聞きたかったのですが、時間はあつという間に過ぎたのでありました。

今年は本土復帰40年記念だそうです。復帰してますか？話し足りなかった続きを、また法政大学の講座で聞ける事を願っています♪
(首都圏 小平裕美)



法政大学の講座で歌を披露する海勢頭代表

沖縄の若者たちによる舞台劇

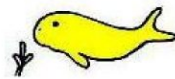
「フクギの栗」公演に参加して...

52年前に起こった沖縄県うるま市(旧石川市)の小学校での米軍ジェット機墜落事故を題材にした舞台劇「フクギの栗」が、東京・文京シビックで12月3日に行われました。

2010年・名古屋の Copp10 の時に上演され「東京でも多くの人に知って欲しい・・・」と実行委員会が、沖縄の若者らで作る「ハーフセンチュリー宮森」のメンバーが事故の悲劇や基地被害の実態を演じました。

事故当時、私は小学校4年生でした。隣の小学校に墜落し、小学生を含む17名の方が犠牲になりました。忘れようとしても忘れられない事故です。普天間や嘉手納などの軍事基地と隣り合わせの生活が、いかに危険なのかをこの事件は教えてくれます。

夜の部は大田元沖縄県知事の講演があり「大浦湾は戦火の中で命を育ててきた大事な場所。新基地は絶対に作らせない。基地のない平和な沖縄を」と力強く語り、満席の聴衆から大きな拍手がありました。SDCCの役割の重要性を感じました。
(首都圏 宮城詔子)



迎春のヨナタマ考 - ~こらむ・コラム~

年が明け、私は相変わらず原稿を書き続けています。昨年出版したかった「卑弥呼コード・龍宮神物語」を、まだ書いているのです。

12月23日の法政大冲文研主催のコンサートに、SDCCのメンバーが駆けつけてきたのに、本を見せられず残念に思いました。そのあと冲文研との懇親会があって、皆と一緒に忘年会にも参加できず、淋しく思ったものでした。かと言って冲文研の交流がつまらなかったわけではありません。中には古事記や日本書紀の研究者もいて、大いに盛り上がり、またパピリオンの常連も多かったことから、まるで同窓会のような雰囲気もありました。特に前所長の安江さんが「はるかな南の海」を歌ったのには、びっくりしました。それをセミナーのテーマソングにしているとのことだったのです。

実は「はるかな南の海」の歌は、宮古の下地島の通り池にまつわる「ヨナタマ伝説」を参考に作られた物語の、主題歌でした。そのヨナタマというのはジュゴンの

ことで、それを「世直しの玉依姫」だとの直感から、この歌は生まれたのです。

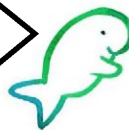
昔々、島の漁師が海に出て釣りをしていると、ケガをした美しい姫が現れて助けを乞うてきた。漁師は傷ついた姫の手当てをし、そこで2人は結ばれた。やがて身籠った姫は海に帰ったが、帰る時に不老不死の薬酒の入った壺を置いていった。その酒はいくら飲んでも減らなかったのだから、漁師はいつになっても歳をとらず、ぜいたくな暮らしをしていた。そこで、まだ食べたことのないジュゴンを食べたいと思い、村の者達に捕りに行かせた。そして捕ってきたのは、こどものジュゴンであった。漁師はそれが自分のこどもだとは知らず殺そうとした。すると突然、こどもを助けるヨナタマの声がして、大音響と共に大津波が襲い村は消えてしまった。という物語

辺野古だけではなく下地島を狙う防衛族には、この話を聞かせてやりたいものです。

海勢頭豊（うみせど ゆたか：SDCC 共同代表）

郵送でもフラッグが届きはじめました。「がんばれジュゴン！」などのメッセージが添えられていることもあります。

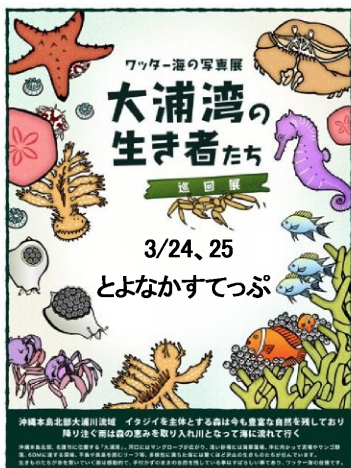
ありがとうございます！



ジュゴン♡フラッグ*ギャラリー

ただいま 370 枚~!





フッター海の写真展 大浦湾の生き者たち in 豊中

日時: 3月24日(土)13時~19時 (*土、日で開催時間が違いますのでご注意ください)
3月25日(日)10時~16時

場所: とよなかすてっぷ視聴覚室 (エトレ豊中5階・阪急豊中駅下車すぐ)

入場無料 (飲み物サービス付き)

沖縄県名護市東海岸の大浦湾は、多様性豊かな生きものあふれる海です。この海をホームグラウンドとする、ダイビングチーム「すなっくスナフキン」さんの、数百枚の写真を一同に展示します。またSDCCのIUCNチェジュ会議に向けての取り組み紹介、お話し会、ビデオ上映なども企画しています。皆様のご来場を心よりお待ちしております。



11/6「大阪団結まつり」

ジュゴンと海を一緒に考える。ジュゴンを海の環境保全のシンボルに据えるオーストラリアからの、『「ジュゴンロック」で海を守ろう』の呼びかけに応じてステージでダンスを披露しました。



12/4「伊波洋一さんと一緒に考える講演会」

伊波さんは、ジュゴンマスコットを胸に「今こそ基地をなくしましょう」と呼びかけられました。

*2/25-26 広河隆一フクシマ写真展 共同展示

クレオ大阪東 1階ギャラリー

*4/15 第4回ジュゴンでトレイン!

ジュゴンと一緒に大阪環状線に乗り込もう!
今回は全国に呼びかけます。詳しくは次号で。

*4/21(土) 第12回SDCC総会

東京・渋谷区(予定) 午後6時~

*4/21-22 アースデイ東京2012

代々木公園 ブース出展します

*7/6-8 じゅごんの里ツアー

現地体験ツアー、今年も開催します



Editor's Note 今年はじめて参加したイベントは、横浜の脱原発世界会議。おとし名古屋COP10で出会った、シャチの調査をしている方がブースに訪ねて来てくれたり、新潟で辺野古基地問題に取り組んでいる方が、署名用紙を持って帰ってくれたり。SDCCの新会員になってくれた方もいて、出会いがいっぱいでした。会場は、この世界を変えようという参加者の元気なパワーに満ちていました。(Y)

ジュゴンちゃんぷるニュース VOL.59 2012年1月24日発行
ジュゴン保護キャンペーンセンター Save the Dugong Campaign Center (SDCC)
Tel/Fax 03-5228-1377 〒162-0815 東京都新宿区筑土八幡町2-2-1
第1千代田ビル301 なかま共同事務所内
○ <http://www.sdcc.jp/> ○ info@sdcc.jp
(関西連絡先) 〒534-0025 大阪市都島区片町2丁目9番21号野口ビル302
TEL/FAX 06-6353-0514



今号のちゃんぷるニュースはいかがでしたか?ご意見・ご感想をお寄せ下さい